

哲風会通信

2021.7 Vol.114

いよいよ東京 2020 オリンピックが開催されます。コロナ禍ということもあり今までとは違うオリンピックになりそうですが、選手の皆さんが力を発揮できるような大会になるといいです。大声で盛り上がりたいところですが、テレビの前で静かに応援したいと思います。



歯の根の治療（根管治療）

歯医者へ行って歯の神経を抜きましようと言われたことはありませんか？神経を抜く治療は歯の根っこの治療のひとつです。

歯の中には歯髄と呼ばれる神経や血管を含む組織があります。むし歯を放置しているとむし歯が大きくなり、細菌が歯髄まで到達するとひどくしみる、食事などで噛むと痛みがでるなどの症状がでてきます。そうすると神経を抜く治療が必要となります。これを抜髄と呼びます。

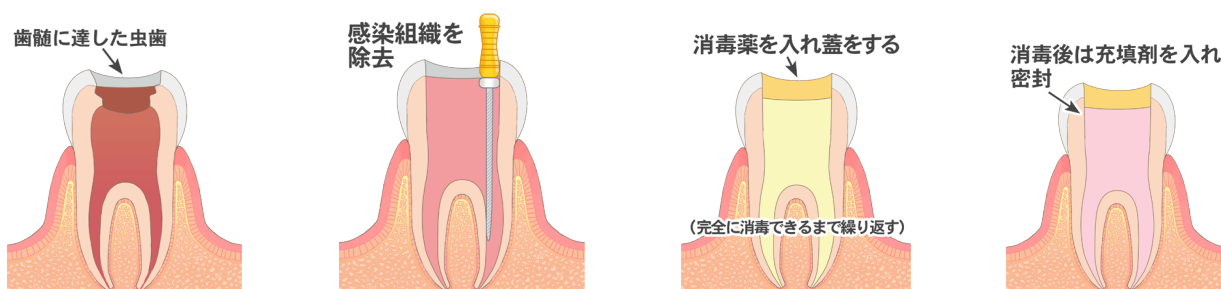
また、むし歯を放置するといつの間にかしみていた歯がしみなくなったり、痛みを感じなくなります。これは治ったのではなく、神経が死んでしまったためです。むし歯だけではなく転倒などによる外傷により神経が死んでしまうこともあります。こんな時は感染根管処置といって、死んでしまった神経を取って根の中をきれいにする処置となります。

根の治療は何をしているの？

根の治療になるとなぜ何度も歯医者へ通わなければいけないのでしょうか。根の治療は毎回何をしているのでしょうか。

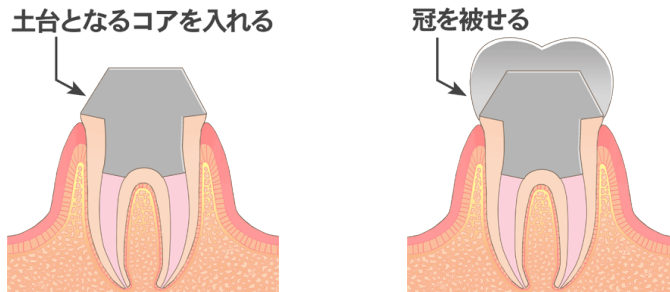
リーマーと呼ばれる細い針のような器具を使って、神経の管を掃除していきます。管の中を薬剤で洗い、消毒薬を入れ蓋をします。この治療を繰り返して根の中の細菌をきれいにしていきます。前歯の根の管は1本ですが、奥歯になると3～4本の管があるため時間がかかります。また、痛みがあると治療回数が増えていくことがあります。

消毒後は空になっている根の管に充填剤を入れ再感染しないようにします。



根の治療をした後は

根の治療が終わると最終的には被せ物をするることになります。被せ物をする際、はじめに土台となるコアを作り、その上に冠を被せていきます。むし歯の範囲が狭くあまり削らなくて済んだ場合には部分的な詰めものをする場合もあります。



歯の神経を抜くと歯の寿命が短くなる

歯の歯髄の中には神経だけでなく、血管も入り込んでいます。歯の神経を抜くということは血管を通して栄養が行き届かなくなり、歯質がもろくなり割れやすくなります。

一度根管治療をした歯でも再び感染して激しい痛みや膿が出るなどして痛みが出ることがあります。細菌が根の先端にまで達して膿がたまり、周囲の組織にも感染が広がり病巣が拡大していきます。根管治療をしても改善が見込めないときには抜歯になることもあります。

今月の通信担当

今月の担当はちづ歯科クリニックの戸嶋です。先日、コロナウイルスのワクチンを接種してきました。副反応が出ないか緊張しながらの接種でしたが、接種の際の痛みはほとんどなく、1回目は接種部位の痛みだけで終わりました。2回目、接種日は何ともなかったのですが、翌日は熱が上がりました。そのほか、倦怠感、頭痛などがありました。個人差があるようですが、やはり2回目は多くの人に副反応が出るようです。ワクチン接種後も感染の可能性はゼロではないので、引き続き感染対策をしていきたいと思えます。

医療法人 哲風会
むさしデンタルオフィス

〒010 - 0912
秋田市保戸野通町4 - 8
TEL:018-853-8214
フリーアクセス:0800-800-8461

医療法人 哲風会
ちづ歯科クリニック

〒018 - 1605
南秋田郡八郎潟町川崎字昼寝
233 - 1
TEL:018-875-2801